

# まちづくり ひろしま

被爆100年(西暦2045年)の姿をめざして

第46号 (令和2年3月15日)

読者数：644名(募集中)

メール：[hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp](mailto:hirosima.idea.c@chugokuc.co.jp)

HP：<http://machizukurihiroshima.web.fc2.com/index.htm>

〒733-0002 広島市西区楠木町1-9-7

発行人：前岡智之、編集人：瀧口信二

配信元：広島アイデアコンペ実行委員会

ご提案・ご意見等は、こちらまで



○広島市中央公園を考える⑬  
中央公園石丸紀興構想コンセプトイメージ図  
(図 前岡智之)



○街角ウォッチング  
京橋川左岸御幸橋下流



○日本都市計画学会中国四国支部  
2019年度特別講演会

## 目次

- 巻頭言：広島はペア作戦で行こう……………広島諸事・地域再生研究所 石丸紀興
- ひろしまのまちづくりの動き
  - ・広島新サッカー場基本計画素案了承
  - ・旧陸軍被服支廠解体先送り
  - ・全国都市緑化ひろしまフェア開催
- 街角ウォッチング…………… 空の下おもてなし工房 山崎 学
- 広島市中央公園を考える⑬…………… 広島諸事・地域再生研究所 石丸紀興
- 日本都市計画学会中国四国支部 2019年度特別講演会報告
- 本「都市を編集する川」紹介
- 読者からの投稿…………… 被服支廠の未来を活かす会 三宅恭次
- 編集後記…………… 編集委員 前岡智之

## 広島はペア作戦で行こう

広島諸事・地域再生研究所 石丸紀興



### ペアの存在

平成8年(1996)に原爆ドームと厳島神社が同時に世界遺産として登録されたことは、だれしも知っていることであろう。それぞれ登録までに紆余曲折があったが、広島地域を世界的に有名にならしめる快挙として記憶されることになろう。ところが、これに続いて、平成18年(2006)には、原爆資料館【平和記念資料館】と世界平和記念聖堂が同時に、戦後の建築として初めて国の重要文化財として指定されたのである。戦後直後ともいえる復興期の早い時期に建設されて、日本を代表するようなモダニズム建築として重要文化財としての評価を得たのである。片や丹下健三、片や村野藤吾という日本を代表する建築家による設計であり、好き嫌いを超えて圧倒的な存在として広島に存在し続けている。

広島は学都であり、軍都でもあった。それを象徴するように、令和2年現在、広島文理大学から引き継いだ旧理学部1号館があり、旧広島陸軍被服支廠(1号棟から4号棟まで)が存続している。軍都、学都としては他にその継承建物はあろうが、ともかく明確に保存・解体問題として話題に浮上しているのがこの二つの建物であるから、現在最も基本的で有力な拠り所であり、その象徴的な存在といえる。

翻ってみれば、広島のお祭りには浴衣祭りとして有名なとうかさんがあり、年の暮れ間近い時期に胡講がある。広島を代表する食べ物としてお好み焼きがあり、牡蠣料理がある。8月には平和記念式典があり、1月には都道府県男子駅伝(天皇杯)があり、観光客の閑散期・縮小期である二・八問題(1月が2月になれば完璧であるが)を盛り返している。スポーツをみれば、野球の広島カープがあり、サッカーのサンフレッチェがある。カープは圧倒的な存在であるが、サンフレッチェも数度の優勝経験があり、広島にとって共にこのペアは欠かせない存在であろう。

### ペアの意味

問題は、広島のパア成立をどうみるかである。ペアでアピールすれば、広島のイメージが格段に上がることは確かであろう。それは観光客の増大を目指すということにとどまらず、都市のイメージ向上に効果的であると言いたい。原爆ドームをイメージするとき、同時に宮島の厳島神社がついてくると広島地域の文化的な広がり、歴史的な奥深さを表現してくれるものであり、世界遺産の意味の厚みを増してくれることになる。その他のペアでも、単独で注目されるよりも、それぞれ独自の領域でペアとしての存在価値を高めてくれるであろう。

これを広島のイメージアップ戦略として利用しない手はないであろう。ペアとして意識するならば、双方に対してのより効果的な特徴付けができるであろう。建築で言えば丹下と村野の作風の違いをガイドとして是非とも付け加えてほしいし、広島の軍都論、学都論についても簡単に一方的に都市を特徴づけてはならないことを残された建物、遺跡が主張してくれることになる。要するに、複眼的な都市のとらえ方にも寄与するのである。

もちろんペアに到達していないもの、あるいは同じくらいの多くの存在が見られるものもある。かつては青バス、赤バスが広島市内バスとして大きな存在であったが、最近は数社がそれぞれ独自に役割を果たしており、この分野に関してはペア的な存在とは言えない。フラワーフェスティバルに見合うお祭りはなさそうだし、国宝としては不動院が圧倒的である。被爆がなければ広島城が堂々とペアになっていたであろうが、それをいっても詮無いことである。美術館は数館存在感を示しており、それはそれなりに意味あることであろう。

### ペア作戦

以上より、広島においてペア作戦を積極的に推進することを提案する。すでにペアとしての存在は大いに生かし、何らかの欠陥があればそれを補う努力が必要であろう。さらには、ペア作戦から、広島のイメージアップとしてより多角的に取り組むべきことが示唆されているといえよう。

ペアでない存在のし方にも課題を投げかけてくれる。平和記念公園で丹下の設計で採用された原爆資料館・慰霊碑・原爆ドームを貫く丹下軸は、広島にもう一本軸線は必要ないのかと問いか

けているし、原爆資料館をペアとする復興資料館は必要ないのか、もっと身近なお土産問題では、もみじ饅頭とペアのお土産の存在は無理なのか、といった具合である。

戦後モダニズム建築の圧倒的な存在は、さらなる現代建築として、不朽の名作建築の出現が待ち望まれているともいえる。あるいは既に出現しているにもかかわらず、評価が定まらないだけかもしれないが。

国宝クラスは不動態に対応して新たに設定すべくもないが、被爆前に存在していて被爆した被爆建物全体を、広島的重要文化財群として対比的にペアとしてとらえるという発想も可能であろう。

## ひろしまのまちづくりの動き

### ① 広島新サッカー場基本計画素案了承！

広島市、県、商工会議所のトップ会談を1月30日に開き、広島新サッカー場基本計画素案を了承。

素案ではスタジアム本体を自由・芝生広場の東側から西側に移し、東側を広場エリアとして年間を通じた賑わいの場とする。

スタジアムは収容人員3万人規模とし、試合やイベントのない日でもスタンド下に飲食や温浴施設などを設けて利用を促す。

総事業費は当初の190億円から資材の高騰、広場の整備、埋蔵文化財の発掘費用などを加え、230億～270億円に膨らむ。

素案では大枠と例示しか示さず、詳細は民間事業者の提案に委ね、建設は設計事務所とゼネコンが組んで設計を提案するデザイン・ビルド（設計・施工）方式を採用するという。

民間のノウハウを取り入れようとするスタンスは理解できるが、事業のフレームワークをしっかり固めなければ失敗に終わる可能性が大きい。

「中央公園の今後の活用に関わる有識者会議」も新サッカー場を容認する形で中央公園全体の整備方針（案）を公表したが、ゾーニングを示した程度で将来に向けたビジョンはまだ描き切れていない。新サッカー場と同様、イメージがさっぱり伝わってこない。

どちらも賑わいの場づくりに力点が置かれ過ぎで、平和記念都市の公園としては今一つ魅力に欠ける。北側に隣接する基町中層住宅地区については公園に戻す方針を示しているが、公園に組み込めば、新サッカー場の適正配置も変わってくる。



広島市のHPより

### ② 旧陸軍被服支廠解体先送り！

広島県は昨年12月に公表した被爆建物「旧陸軍被服支廠」3棟のうち2棟を解体する方針を先送りし、2020年度は外壁面の補強対策と国や広島市と活用策を検討する予算を盛り込む。

市民からの全棟保存の声がマスコミ、県議会、国会議員などを動かし、解体先送りに追い込んだが、まだ撤回されたわけではない。

今回県はパブリックコメントを行い、多くの市民の意見を集約できたことは意義深い。国史跡指定の可能性も出てきたこともあり、原爆ドーム同様に物言わぬ「被爆の証人」として存在し続ける価値が芽生え始めた。

英知を集めて全棟保存とその活用策を見出し、世界遺産に登録するぐらいの高い目標を掲げた取り組みが望まれる。

### ③ 第37回全国都市緑化ひろしまフェア「ひろしまはなのわ2020」開催！

全国都市緑化フェアは毎年、全国各地で開催される花と緑の祭典で、「ひろしまはなのわ2020」は37回目。

3月19日（木）から11月23日（月）まで、県内の自治体すべてが主催者となり、花と緑が広島県に大きな「わ」をつくる。

ただ、この度の新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するため、開会式など一部のイベントを中止または延期。<https://hananowa2020.com>

メイン会場の旧市民球場跡地エリアは5月24日（日）まで開園。



メイン会場（旧球場跡地）

## 自慢したい、広島市の河岸緑地

(一社) 空の下おもてなし工房 代表理事 山崎 学

広島市の川沿いの緑地は、日本の大都市では珍しい石造りの護岸と相まって、いかにも水の都らしい特徴的な風景を作り出している。昭和24年8月6日に公布された「広島平和記念都市建設法」に基づく「広島平和記念都市建設計画」で初めて位置付けられたものだが、実際の整備はなかなか進まなかった。昭和22年頃から40年代まで20年もの間、広島市の河岸の多くの場所でバラック住宅が建てられたままの状態だったからだ。基町環境護岸の部分も高層アパートの地区改良住宅が完成し、河岸のクリアランスと護岸工事が行われた後、昭和58年に緑地として開設された。

そんなわけで、河岸緑地の具体的な整備計画は、どうやら昭和42、3年につくられたようだ。その後40年代を通じて整備が進んだが、治水上の200年確率による護岸整備計画との整合を図るため、昭和55年度に今の計画が策定された。放水路を除く広島デルタの五つの川沿いに総延長47.7kmを整備する計画だ。平成30年度末で26.7kmの整備が終わっている。(下図、河岸緑地整備状況(広島市資料)参照)

最初の計画で整備されたままのところもあるため、実際はもっと長い距離の河岸緑地が存在する。

最初の計画策定から50年以上、延々と整備を続け、今やおそらく30km以上の緑地が川沿いに造られている。こんな都市は少なくとも日本では他にない。河岸緑地は広島市の誇るべき空間だ。

整備済みの区間の中でどこをご紹介するかは迷うところだが、あまり知られていない、個人的に好きで、自慢したい場所をあげさせてもらおう。

- ・京橋川左岸・稲荷橋下流鶴見橋あたりまで

河岸の緑がボリューム豊かに連なり、比治山の緑と重なって、まさに水と「緑」の都という風情が感じられる。対岸の緑も豊かだ。

- ・京橋川左岸・御幸橋下流宇品橋あたりまで

比較的最近整備されたようで、緑のボリュームは少なめで、木もまだ若いのが、緩やかに湾曲する護岸が美しい。特に堤防上の園路のほか、通常では水に浸からない高さに作られたリバーサイドウォークがずっと長く続いているところが良い。散策やジョギングなどでよく利用されている。

- ・本川左岸・JMSアステールプラザ部分

緑豊かで落ち着いた緑地。昭和50年代に設置された素晴らしい彫刻も楽しめる。施設との関係でレストランや喫茶も近い。



京橋川左岸柳橋下流



京橋川左岸御幸橋下流



JMSアステールプラザ裏



## ○ 広島市中央公園を考える⑬

### 今、改めて基町・中央公園の基本構想を検討する —被爆 100 年を見据えて抜本的な構想の提案へ—

広島諸事・地域再生研究所 石丸紀興

#### はじめに

今まで幾度となく基町のあり方、中央公園のあり方が検討されてきた。そしてその提案の数を数えれば、2~30 案を下らないであろう。そしてその都度、過去の構想を越えるものとして新構想が提案されてきたといえるであろう。確かにそれらの中には斬新なアイデアが盛り込まれていて、採用すべき内容も多く含まれている場合もあったであろう。とはいえ、今まで明治維新百年を記念して中央公園構想が練られたことはあったが、現在の「広島の都市計画」などに記載がなく、明確な構想の蓄積が認められるものではなかった。

平和記念公園のコンペで入賞した丹下健三が中央公園地域についても提案を拡大してきたのであるが、その扱いもまちまちであった。或る時はいかにも広島市公認の計画であるかのように、広島市公文書館紀要第 23 号に掲載された図（上図）では、「丹下健三氏が構想した平和記念公園と児童センターなどの全体図（昭和 25 年 5 月 25 日作成）」として掲載され、ほぼ同じような内容で「平和記念公園計画図（昭和 26 年 1 月 4 日広島市役所建設局計画課作成）」（下図）とあった。しかしその後、都合の良い部分だけ引用されることはあったが、全面的に確定案としての扱いは受けたことはなかった。

そして現在、新たな検討委員会のような組織が設置されて中央公園のあり方や、広島城のあり方、さらには新サッカー場（サッカースタジアム）への付与機能の公募などの動きも出てきて、各種提案の百花繚乱状態ともいえる。いよいよ決定的な構想に収斂していくのか、あるいは今回も決定的な案に収斂することなく、いつもの曖昧な結末を迎えるのか。中央公園の将来のあり方を検討する際には、今までの経緯をたどり、きっちりと総括することが必要であり、それから何が導かれたのか、その内容が問われるのであり、公表すべきである。

そもそも検討会の土俵ができてきているのか、基本的な認識が成熟段階に達しているのだろうか。最も先行しているのが新サッカー場問題、多くの細かなアイデアに満ち溢れているとしても、検討に耐える原案が提起されているのか、基本的な計画理念の形成が進んできているのだろうか。言い換えれば、構想の最も基本たるコンセプトの形成が進んでいるのだろうか。

#### 1. 新サッカー場問題の位置づけ

現段階で新サッカー場の建設問題は風雲急を告げている。この位置で決定がなされてしまうと他の構想とも関連して、中央公園構想に大きな影響を残すことになりかねないのである。従って、基町・中央公園の全体のあり方を検討するに先立って、まずは新サッカー場問題から言及しておく必要がある。

新サッカー場問題を論じるに当たって参考にすべきは、東京オリ・パラリンピック 2020 に向けて建設された新国立競技場であろう。当初、安藤忠雄審査委員長のもとでのコンペにおいて、ザハ・ハディオの極めて特徴的な構造・形態案が入選したが、あまりに巨大な建築物、威圧的な高さや環境影響変化の面と併せて巨額な経費面から、建築家槇文彦を中心として批判的な指摘・運動が起り、原案が撤回されて、代わって隈研吾案が採用された。

ここで神宮の杜という緑環境を受け入れ発展させ、かつ木造建築の大幅採用といった大胆な案が推進された。もちろん、ここでオリンピック後の管理運営問題は残しているが、また好き嫌いの問題はあろうが、少なくとも現代的な課題に応え、新たなコンセプトを提供しようという姿勢が見られる。競技場周りの緩衝地帯は相当なもので、騒音を吸収し、景観の著しい影響変化を受け入れようとしているように見える。建築系雑誌を見てもいくつかの問題提起の強さ、大きさ、新しさ、すなわち世界に発信できるユニークなコンセプトを認めることができよう。



これに引き換え、広島ではどうであろうか。そもそもサッカー場の設計は、時間経過による競技の公平性を保つために、南北軸の採用を義務づけられる。とすれば南北に長辺がある敷地が要請され、同時にスタジアム周辺に一定の緩衝地帯を設けることが必須である。それは音響だけでなく、景観、交通による著しい環境変化の影響を考慮すべきであり、そのシミュレーションとアセスメント\*1が絶対に必要である。

## 2. 中央公園基本構想の確定において備えるべき要件

さらに中央公園構想では、ここにおいて備えるべき条件、スポーツ施設機能や文化施設機能、そして現代的に要請される機能・役割等々は何かの問いがあり、今までそういった施設機能の配置はどうであったか、どのような問題があったか。そこには全体を貫く思想、コンセプトがなく、一貫性を欠くならば最大の欠陥となる。単純に機能区分図・配置図だけでは十分ではなく、より理念的、シンボリックな理解図に収斂していくべきであろう。

その時、平和記念公園で採用され、大きな役割を果たしてきた丹下軸は無視しえないであろうし、さらには、現代的な要求である国際性や芸術表現の場という側面を重視していくならばどうなるのか、とりわけ被爆被害展示という空間から、そしてさらなる現代的都市機能の模索を包み込んで、構想の深化と普遍化が問われる。

それは広島の都市の本質から導かれるものでなければならないであろう。すなわち、オリンピックや万博開催のような一過性の事業ではなく、数年で飽きられたり、欠陥が生じたりする構想でなく、被爆 100 年をどのように迎え、100 年記念事業ということだけでなく、さらにその先将来に向かうのか、壮大なテーマへの回答でなければならない。その代表的な空間として、基町・中央公園が必要であり、学都の中心的存在であった旧広島大学跡地や魅力的な比治山、その他必要な場所も動員して備えるべきであろう。

そこでは世界各地から訪れて多くを感じ取り、思索して帰っていくような空間や施設、ソフトを含めた準備、整備であろう。そこでは環境や資源を食いつぶすような、巨大な構造物や施設を建設するのではなく、できるだけソフトに着陸し、ソフトに離陸できるような施設配置、空間整備であろう。

それは 2015 年 11 月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標」(SDGs)\*2 という目標設定と達成基準の理念に沿うものでありたい。今や持続可能性問題は世界からの目が注がれており、時代遅れの対応であるならば、広島の味を著しく減じることになる。

## 3. コンセプトの図化(案)

とすれば構想の基本的な理念は、広島の水辺であったり、お城に近接していたり、独特の道路体系を備えたりしている地形と今までの歴史を生かし、広場や緑の空間を潰すのではなく、厚みを増して深化させていくことである。抽象的な表現だけでは基本構想のイメージが伝わらないであろうから、多少とも具体性をもたせるようコンセプトイメージの図化を試みる(右)。とはいえ、実際には様々な検討を経て確定に至るであろうから、ここではあくまでも試案といえるものを提起しておく。

まずは丹下軸を受け止め、展開であるが、その軸線に厳格に沿うべきということではなく、まずは拠り所とし、新たな解釈を加えて多様な展開も可能と考えるべきで、都市のレガシーとして生かしていく。

中央公園と平和記念公園との接点・接続は、スムーズな斜路形式というすでに提案事例もあり、慎重に採用を考え、平和記念公園の役割をつなぎ、復興過程から現代的な都市政策に関わるテーマへ中央公園に展開することであろう。そこで具体的な施設として原爆資料館に対応する復興資料館(仮称)の提案である。これこそ中央公園と平和公園の結節である。

そして、大きな空間として確保されるのが、性格付けられた縦軸の帯状の場、そこは芸術家や表現者によ



コンセプトイメージ図

って世界から広島にきて発表・表現する場、いくつかの催し空間を融合させ、つないで位置づけることができる。ここでは施設そのものよりソフト・システムが大切なのである。

多国籍、多宗教の人たちが国際的に関わり、交感し、表現する場の形成、世界的な芸術家が年単位で訪れたり、インスタレーション等を制作発表したりする場、ここでは当然ながら平和と国際性・交流ということがテーマになるであろう。

いずれにしてもこの場の在り方は市民的なワークショップ等で検討を経て形成されるべきであり、再編成・再構成され、固定的に確定すべきではないであろう。このような所に巨大なスポーツ施設空間を配することはどうか、SDGsのチェックはどうか。

基町・中央公園の新たなコンセプト、その内容の深化と普遍化、それは被爆100年を超えて世界に向けて存在し続けるべく広島の役割である。

- \*1 音響問題というか騒音問題は、どの程度の緩衝地帯が必要なのか、サッカー競技の開始時、終了時の交通上はどうなっているか、とりわけバスセンターからの郊外バスの運行状況に悪影響はないのか、北東部の緑地空間を潰して問題ないのか、といった多くの問題のアセスメント結果をわかりやすく公表すべきである。
- \*2 ウィキペディア、その他詳細な解説本もあるので参照のこと



例えば島根フェアの状況、このようなイベント、多様空間の場は、無限の魅力がある



中央公園北東部広場周辺、ここは緑の蓄積がある、そこで巨大な構造物と両立できるか

## ○「日本都市計画学会中国四国支部 2019年度特別講演会」報告

### 『広島市被爆70年史を語る』～都市の記憶と未来～

広島市被爆70年史の執筆を担当した日本都市計画学会員の石丸紀興氏と戸田常一氏に70年史に関わる話を語ってもらい、コーディネーターを交えて広島の将来について討論する。

主催：(公社)日本都市計画学会中国四国支部(企画・研究委員会)

日時：2019年12月21日(土)13:30~17:00

場所：合人社ウエンディひと・まちプラザ

### ☆「広島近代史120年から見た都市の形成・変遷の課題」

講師：石丸紀興氏(広島諸事・地域再生研究所代表)

- 反省点：被爆者の広島復興に対する感想が満足に収集できなかったこと。歴史上定説となっている本流・正史以外の動きについても記述したかったが、十分でなかったこと。等々。
- 執筆方針：戦前の都市形成や計画の動きの中に隠し味として平和の意味を盛り込む。被爆40年史など過去に執筆した資料をベースに書き直したが、「新たな大規模開発」は新規に書き下ろす。
- 各論の概要：執筆担当は戦前編の「都市計画の始まりと大広島構想」、戦後編の「復興計画の立案と進展」「平和記念都市建設法と平和記念施設」「基町を中心とする公園・緑地・住宅計画」「広島の新大規模開発」。ここではポイントのみ紹介。
  - ・日本は大正8年に都市計画法を制定。広島では昭和3年に最初の都市計画道路を策定し、道路が拡張され、相生通りや鯉城通りの一部にビルが建ち始める。街路樹や橋も整備され始めるが、戦争で凍結。なお、不可侵地帯の広範な軍用地が都市計画に影響。
  - ・昭和21年10月には復興審議会が復興計画を承認。驚異的なスピードである。
  - ・ピカドン記念館、記念公園、被爆建物の保存など、復興に関わった外国人が提案。
  - ・JICAの平和研修などで海外の研修生が「広島復興に学ぶ」と高く評価しているが、それぞれの国の実情の違いを理解しないと参考にならない。
  - ・平和記念公園の設計コンペの募集要項に「原子爆弾災害資料の陳列室(後に陳列館)」を明示した人が最大の功労者。丹下健三説や長岡省吾説あり。
  - ・大規模開発の項では、もはや大規模開発の時代は終わり、これからは都市の防災・安全化

に力を注げと結論付けたが、皆さんも戦後の復興後からの流れを総括し、将来に向けた課題を整理してもらいたい。次の市史では主要なテーマとなる。

## ☆ 「広島地域経済の成長と社会基盤整備と環境問題」

講師：戸田常一氏（安田女子大学教授・広島大学名誉教授）

- ・70年史の執筆は途中から参加し、地域経済と社会基盤と環境のテーマを担当。
- ・戦後の広島の歩みは第Ⅰ期（1945～71年）復旧・復興と第Ⅱ期（1972～）都市拡大に分類。
- ・平和記念都市建設法に基づき、道路・河川・公園など公共施設が整備され、美しいまちに変貌。一方、経済発展に伴い人口が増加し、無秩序に開発された民有地の醜い景観も持つ。
- ・第Ⅰ期の基盤整備は太田川放水路事業と復興土地区画整理事業で広島を骨格を形成。また大規模地方開発都市に指定され、地方中枢機能を強化。第Ⅱ期に入ると広島西部開発、港湾整備、住宅地開発、西風新都建設、高速道路、新空港などの社会基盤を整備。
- ・第Ⅰ期の広島経済は成長助走期間で、三菱広島造船所による生産拡大が経済成長に寄与。1970年以降、基幹となる東洋工業（現マツダ）の自動車製造業が本格的な操業に入り、本格的な経済成長。1990年を境にバブル経済が崩壊し、国内も広島経済も低迷化。
- ・第Ⅰ期の環境は大気汚染・悪臭・汚水・騒音・振動などの産業型公害が中心。第Ⅱ期はし尿処理・生活ごみなどの都市生活型環境問題に移行。1990年代からは地球環境問題に発展。

## ☆ ディスカッション～歴史を記憶・省察し、都市の未来を語る～

石丸氏＋戸田氏＋渡邊一成氏（コーディネーター、福山市立大学教授）

### —平成時代を振り返る—

（石丸氏）高度情報化・ロボット化などにより貧富の格差が広がり、分断社会に向かっているが、みんながそれぞれの生きがいを感じられる社会が望ましい。

（戸田氏）経済の情報化・国際化や交通の高速化などにより広島が支店から出張所になり、拠点性が脆弱化。製造業に依存しすぎて頭脳部門が弱かったので、地域経済の成長が鈍化。

広島は周辺から慕われるまちであったが、中山間地域が疲弊。今は都市が拡大し、スポンジ化している。

### —民間セクターの貢献—

（石丸氏）行政主導で大規模開発を行ってきたが、例えば高陽ニュータウンなど空き家が出始めている。民間サイドで不動産の流通を積極的に図っていくべき。西部開発なども車の行き来だけで人気がなく、歩いて楽しいまちづくりにすべき。

（戸田氏）民間セクターはバリュー・クリエイター。ビジネスは新たな価値を生み出し、結果として社会を幸せにする。広島空港へのアクセス整備などは行政だけでは限界があるので、連携を取りながら民間活力を積極的に活用していくべき。

### —令和の時代のまちづくり—

（石丸氏）中央公園、旧広大理学部1号館、比治山公園で整備計画が進められているが、平和記念都市としてのコンセプトが見えない。被爆100年を見据えたビジョンを持って取り組むべき。広島平和研究所は平和政策だけでなく平和構築のための都市政策の研究も必要。

（戸田氏）広島はデルタのまち、海に浮かんだまちであり、水辺を活かした都市を目指すべき。臨海部を再開発し、クルーズ船を増やして市内の川や瀬戸内海を巡るビジネスに力を入れてはどうか。

（渡邊氏）まとめとして、被爆100周年をどう迎えるかという視点でまちづくりを考えてみたい。ビジネスの発想から価値を生み出すまちづくり、エリアディベロップメントが大事。

## ☆ 会場からの質問—旧陸軍被服支廠の保存について

（石丸氏）大空間なので利用価値大。当面、県や市という枠にとらわれることなく浸水対策を込めて博物館などの収蔵庫として活用し、その間に本格的な対策及び活用策を検討すべき。

（戸田氏）被服支廠単体で考えるだけではなく、旧宇品線沿いの広大大学病院のレンガ建物や郷土資料館、旧宇品港など面的にとらえた視点と考え方を取り入れてはどうか。

（編集委員 瀧口信二）





## ○ 本「都市を編集する川—広島・太田川のまちづくり—」紹介

昭和50年代の基町環境護岸から始まる太田川の整備に中心的な役割を果たした中村良夫氏（現東京工業大学名誉教授）とそのチームにより実践された水辺のデザイン手法の記録である。

水辺を都市の縁側のように人々が集い楽しめるコモンズ空間にしたいというコンセプトの基に果敢に取り組み、水の都ひろしまは先導的な役割を果たすことができた。その背景とプロセスが明らかにされる。



### ☆ 全編の概要

戦前の広島は川沿いに料亭や茶屋が建ち並び、大衆の社交の場として楽しんでいたという。水辺は民家や料理屋が占有していたが、戦後の復興計画において河岸緑地が整備され、コモンズとしての水辺の使い方が段々と広がっていく。

広島市は平和記念都市を掲げ、その象徴が平和記念公園、平和大通り、水の都を支える市内派川の河岸緑地である。広島市、広島県、建設省（現在の国土交通省）が一体となって河川整備の課題を検討し、河川管理者の中国地方建設局太田川工事事務所から当時東京工業大学助教授の中村良夫氏に「景観から見た太田川市内派川の調査研究（1977年）」を委託。

市民の意識調査と河川利用等の現状や沿川都市計画の情報を整理して河岸地区のデザイン構想を提案。本調査に基づき、太田川基町護岸の設計が進められる。

デザインのコンセプトと基本方針が示され、各地区の設計をスケッチ付きできめ細かく解説。水辺の景観が川と都市・暮らしを結びつける手段となり、まちなかにちりばめることによりまちのイメージを創り出す、即ち、都市を編集する川にしようと考えた。

この理念と方針が後の「水の都整備構想」（1990年）、「水の都ひろしま」構想（2003年）へと継承され、発展していく。

### \* コメント \*

水辺のオープンカフェや雁木タクシー、基町河岸緑地での野外上映会「ポップラ劇場」など誇るべき広島の風景も考え抜かれたしつらえが用意されていたから可能であった。

（編集委員 瀧口信二）

注）定価：1800円＋税、著者：北村眞一ほか、発行所：溪水社、発行：2019年12月10日

## ○ 読者からの投稿

### 旧陸軍被服支廠の「倉庫」を知り、活かすために・・・。

被服支廠を未来に活かす会 代表 三宅恭次

昨年末、広島県は被服支廠について「2棟解体、1棟外観保存」とする案を提示しました。その後の詳しい経緯は触れませんが、マスコミの中でもNHK、朝日新聞、松井広島市長さらには広島選出の平口衆議院議員等の報道、発言などにより、大きな注目を集めることとなりました。その多くは「保存」を求めるものでした。当初広島県は2020年度予算に計上、原案通りコトを進める予定でしたが、県議会の多数会派も慎重論に転じたことも有り、事実上1年先送りすることにしました。

さて、私たち「被服支廠を未来に活かす会」は平均年齢が70歳代後半の7人です。被爆直後の荒野と化した広島の復興に力を尽くした市長のご子息、戦前被服廠への納入業者だった会社を戦後長らく経営してこられた方、長野オリンピックやJリーグ立ち上げに関わって来られた元広告マン。「わたしらは他県人」という、患者の癒しの空間を作るホスピタルアートのプロデューサーと都市計画の専門家で今はマンマーで仕事をしている湯来在住者、そして「このままでは解体される、とにかく行動を起こしましょう」と事務局も担うアーティストのKさん。

実は私が県に出したパブリックコメントを「こんなもんを出しました」とメールしたものを読んで皆に声掛けしてくれたのがKさんです。記者たるもの運動主体には入らず、傍からあれこれアドバイスをするものですが、Kさんから「あなたがしなきゃだめよ」と言われ、私が「ジャーナリスト」の肩書で代表となった次第です。

### なぜ具体的な行動を起こすよう、働き動かしたものはなにか？

まず、この被爆遺構に手が加えられていない、被爆当時のままの圧倒的な存在感です。爆心地から世界に「核廃絶」を発信している原爆ドーム、これは被爆当時の姿ではありません。誤

解を恐れずに言えば随分「お化粧」をされています。

被爆75年、今何故広島に原爆投下されたのか？これを正確に理解している人は少なくなっています。アメリカのマンハッタン計画で、投下目標都市が数か所ありましたが、広島は最後まで残り、最初に投下されました。それは広島が巨大な軍事都市だったからです。被服支廠は最前線の陸軍部隊に軍服、軍靴など軍需品を生産、発送する極めて重要なバックヤードだったのです。そして、被爆直後は被災者の収容所となりました。その様子は峠三吉の「倉庫の記録」に儘すところなく描写されています。さらにその後は大学の寮になり、運送会社の倉庫になるという「数奇な運命」を辿った物語、ストーリー性が存在していることです。

**そして極めて重要なことはこの遺構そのものを有効利活用できることです。**

これまで、3回会合を持ちました。「具体的な行動として目に見えるものは募金かな」ということになり、「倉庫モデル」の募金箱の制作に取り掛かるべく、広工大の遠藤吉生先生などと相談を始めています。このほか、出ているアイデアとしては広島にある国連機関「ユニタール」の移転誘致の運動。被爆樹の苗木を「倉庫」周辺に植樹、さらに社会貢献に賛同し寄付してくれる企業はないか・・・等、いずれにしてもメディアが注目してくれるような企画を模索しています。

**私は今年の8・6までに「保存・有効利活用」の機運が高まるか、がキーポイントと考えます。**行政は一旦決めたことを撤回・変更は基本的にはしません。そのことを肝に銘じながら進めていきたいと思っています。

## □ 編集後記

小学校の頃、体育館で長時間目を閉じたままで正座させられたことがある。誰かが悪いことをしたらしい。先生曰く、「だれも見えていないから悪いことをした者は立ちなさい」と。やがて足が痛くて痛くて、身に覚えはないのだが、耐えられなくて立とうとしたら、「よおし」と言われた時、何かがそこに存在すると実感したのだ。

武漢あたりから発症した新型コロナウイルスの感染拡大は、今まさに正念場を迎えている。それは「私たち人類の在り方を今一度考え直すべし」と天の戒めのように思えてくる。

我慢して、耐えて、いよいよの時には何かが見えてくるのだ。

とは言え、1日も早い拡大の沈静化と重症化率の低減が図られることを望むばかりである。  
(編集委員 前岡智之)

### ○お知らせ：「時代を語り建築を語る会(第28回)」開催の延期

- ・ 語り人：船越聖示氏（元広島女学院教員、ボランティア活動など）
- ・ テーマ：富士山は友だち—山の魅力を語る
- ・ 開催日：予定していた2020年3月28日（土）は中止、延期します  
改めてお知らせしますが、5月30日（土）の予定です
- ・ 主催：時代を語り建築を語る会実行委員会（代表 石丸紀興）

**\*メルマガを読まれての感想や質問及びひろしまのまちづくりについて  
皆さんの自由な提案・意見をお聞かせください！**

(投稿は500字程度でお願いします)

#### 編集委員

石丸紀興	広島諸事・地域再生研究所主宰
高東博視	心豊かな家庭環境をつくる広島21理事
瀧口信二	広島アイデアコンペ実行委員会事務局
通谷 章	ガリバープロダクツ代表
前岡智之	中国セントラルコンサルタント代表